




E コース <北山地区>

中道往還の旧道を歩くコース

— みどころ —

北山地区には、駿河国と甲斐国を結ぶ中道往還(甲州街道)の旧道が通う。また、大寺院北山本門寺があり、開基の日興などにまつわる伝説が残されている。

みどころポイント 石造物  寺社  寺社 







スタート

富士宮市役所
北山出張所
北山1584-1



ゴール

距離:約5km 所要時間:約2時間

マークの凡例: 観察ポイント ● 説明板 ▲ トイレ  駐車場 P 寺院  神社 
石造物  ルート — 番外のみどころ ●

— コースのみどころ —

① 正林寺

正林寺を開創した日頂の墓碑がある。日頂は日蓮の六人の高弟「六老僧」の一人であり、北山本門寺(②)で兄弟子の日興を助け、富士門流の発展に寄与した。

② 北山本門寺

本門寺は、日蓮の六人の高弟「六老僧」の一人 日興が開山した。地名を冠して「北山本門寺」や「重須本門寺」とも呼ばれる。本門寺の開山には、重須郷の石川氏や上野郷の南条氏といった有力者の助力、小泉法華宗・上野講衆など地域の日蓮宗信者の支援があったと考えられている。

明治43年(1910)五重塔改修工事中に発生した火災により五重塔をはじめ多くの伽藍が焼失したが、その後本堂などの伽藍が再建された。焼失した五重塔は、その跡に基壇や礎石などが残され、境内には復元模型が展示されている。

また、境内には、今も「日尊の腰掛け石」や県指定天然記念物「題目杉」など寺院の歴史を伝えるものが残されている。

番外) 北山用水掛樋

北山用水は、市内内野の横手沢で芝川から取水する。「本門寺用水」とも呼ばれ、本門寺の願いにより、徳川家康の命を受けた井出志摩守が開いたと伝えられる。北山用水は富士山裾野の水無し地帯の開発に大きな役割をはたし、今も農業用水として市内の広い地域で利用されている。

北山用水は、大久保沢の深い谷を渡るため本妙寺裏手の谷の両岸に石積みをして掛樋を渡していた。

③ 中道往還

中道往還(甲州街道)は、駿河(静岡県)と甲斐(山梨県)を結ぶ重要な街道であった。中道往還は富士市吉原から富士宮市中心部を通り、山梨県富士河口湖町精進から右左口峠を越えて甲府に至る。静岡県側からは海産物が、山梨県側からは甲斐絹などが運ばれた。

北山地区は大宮宿と上井出宿の間に位置し、往来する人々が休憩する間宿であった。街道沿いには神社や石造物が並び、昔をしのばせている。

<旧道沿いにある石造物・神社>

① 稲荷神社

② 甲子(道沿い西側)

③ 道祖神: 文字道祖神は明治29年(1896)造立。ほかに双体道祖神がある。

④ 天満宮: 境内に正徳元年(1711)造立の石灯笼がある。

⑤ 菩薩像と題目碑: 菩薩像は享保17年(1732)造立、題目碑は文政5年(1822)造立。

⑥ 馬頭観音・題目碑: 馬頭観音は天明5年(1785)北山上宿講中の造立。題目碑は享保10年(1725)造立。

番外) 日尊の梨の木

市立北山中学校の校庭に「日尊の梨の木」と呼ばれる梨の木がある。

昔、日興が本門寺で教えを説いていた時、弟子の日尊が梨の葉が散るのに気を奪われた。日尊は、その心の隙を厳しく責められ破門されてしまった。しかし、その後日尊は諸国で修業を積み、後に破門を許されて各地に日蓮宗を広めたという。

その梨の木が、代を重ねて今も伝えられている。